

平成 23 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く）
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	アサヒゴム株式会社	
所在地	埼玉県深谷市北根15番地	
事業者番号	0050	
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,935	kℓ/年
大規模小売店舗面積 (10,000m <sup>2</sup> 以上の場合)		m <sup>2</sup>
産業分類名 (中分類)	ゴム製品製造業	
分類番号 (中分類)	19	
事業活動の概要  (事業内容、従業員数、資本金等)	製造品 自動車用ボディシーラー、アンダーコート 剛性補助材、制振材、自動車用防音材、弾性舗装材 従業員 197人(本社工場のみ) 資本金 5億円	
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)		

## (3) 地球温暖化対策推進者（事業者で1人以上）

所属部署	電話番号
設備管理部	048-584-6462

（４）県内に設置している事業所

※書ききれない場合は別添としてください。

事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(k l)
単独で1500kL以上の事業所		
005001	アサヒゴム株式会社 本社工場	3,935
1500 kL未満の事業所の合算		
合計		3,935

（５）公表方法

<input checked="" type="checkbox"/> インターネット利用による公表	アドレス	<a href="http://www.asahi-gomu.co.jp">http://www.asahi-gomu.co.jp</a>
<input checked="" type="checkbox"/> 事業所での備え置き (複数可 書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	アサヒゴム株式会社 本社工場 管理部
	所在地 1	埼玉県深谷市北根15番地
	閲覧可能時間 1	9:00~17:00(土日祝日を除く)
	閲覧場所 2	
	所在地 2	
	閲覧可能時間 2	
<input type="checkbox"/> その他		

（６）公表の担当部署

名称 (複数可)	連絡先		
	電話番号	F A X 番号	E-mailアドレス
1 管理部総務課	048-584-1111	048-584-1950	<a href="mailto:hansaka-y@asahi-gomu.co.jp">hansaka-y@asahi-gomu.co.jp</a>
2			
3			

（７）県による公表希望（IV類（任意事業者）のみ記入）

県による報告書の公表を希望	<input checked="" type="checkbox"/>
---------------	-------------------------------------

2 地球温暖化対策推進における基本方針 ※事業所ごとに定める場合は、事業所用に記載する旨を記載

別 紙(環境方針)

3 地球温暖化対策における推進体制 ※事業所ごとに定める場合は、事業所用に記載する旨を記載

別 紙(体制図)

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	7,579				
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
その他温室効果ガス					

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

平成 23 年度

事業所番号

005001

## 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 事業所の概要

## (1) 事業所種別

事業所種別	平成20年度以降の3か年度（年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度）連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所（他の事業所の一部（区分所有部分、テナント部分等）である事業所は除く）
C	

## (2) 事業所及び事業内容

事業所名	アサヒゴム株式会社 本社工場		
所在地	埼玉県深谷市北根15番地		
直近3年のエネルギー 原油換算使用量(kℓ)	20年度	21年度	22年度
	3,644	3,646	3,935
産業分類名（中分類）	ゴム製品製造業		
分類番号（中分類）	19		
事業活動の概要  (事業内容、従業員数、 敷地面積、延べ床面積等)	製造品目 自動車用ボディーシーラー、アンダーコート 剛性補助材、制振材、自動車用防音材他 従業員 197人(本社工場のみ) 資本金 5億円		

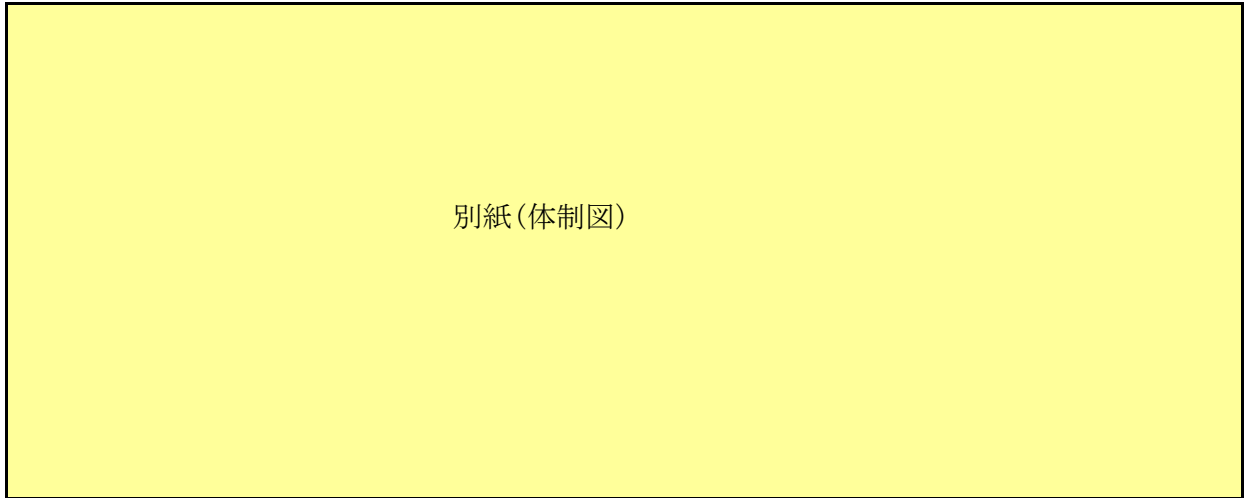
## (3) 地球温暖化対策推進者（事業所に推進者がいる場合）

所属部署	電話番号
設備管理部	048-584-6462

## 2 事業所の地球温暖化対策推進における基本方針（事業所で定めている場合）

別紙(環境方針)

3 事業所の地球温暖化対策における推進体制（事業所で定めている場合）



4 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 削減目標

削減計画期間		23	年度	～	26	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	平成14年度から平成16年度の3年間の平均排出量(10,393t-co <sub>2</sub> /年)を基準に削減計画期間の平均削減率を6%(624t-co <sub>2</sub> /年)以上削減します。				
	その他の					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の目標の概要	基準排出量	10,393	t-CO <sub>2</sub> /年			
	排出可能上限量 (計画期間合計)	39,080	t-CO <sub>2</sub>	目標削減率	6%	

5 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

				計画期間前		計画期間			
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	目標		6,954	7,500	7,450	7,400	7,350		
	実績	7,024	7,579						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	目標							
		実績							
	メタン	目標							
		実績							
	一酸化二窒素	目標							
		実績							
	ハイドロフルオロカーボン	目標							
		実績							
	パーフルオロカーボン	目標							
		実績							
	六フッ化硫黄	目標							
		実績							
温室効果ガスの合計		目標	6,954	7,500	7,450	7,400	7,350		
		実績	7,024	7,579					

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

				計画期間前		計画期間			
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		目標		0.2606	0.2870	0.2860	0.2850	0.2840	
		実績	0.2632						
活動規模の指標	● 生産量	単位	26688	26326	26132	26049	25965	25880	
	○ 出荷額	単位							
	○ 従業員数	単位							
	○ 床面積	単位							
	○ ( )	単位							

No	対策の区分			対策名称	実施時期	備考
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	管理標準を設定し、台数制御装置を導入	平成21年度	
2	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管、バルブ等を保温し、熱損失を防止	平成23年度	
3	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気ドレンを回収加熱し、ボイラー給水に利用	平成21年度	
4	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	製品倉庫冷房負荷を減らすため、屋根に散水装置設置	平成21年度	
5	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	タイトランスを高効率型へ更新	平成21年度	
6	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工業用水ポンプを見直し22kwから5.5kwへ変更	平成21年度	
7	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサー台数制御装置導入	平成21年度	
8	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	油圧トリム機非作動時油圧ポンプ停止	平成24年度	
9	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯更新時は全て、電子安定器もしくはLED器具を使用	平成25年度	
10	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	密着成分加熱方式を見直し夜間のボイラー停止	平成26年度	
11						
12						
13						
14						
15						



## 別紙4号 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

事業所C

(※希望者のみ記載)

アサヒゴム株式会社 本社工場

自由記述欄

--

県が定める係数以外の電気の排出係数を用いた場合のエネルギー起源CO2排出量(22年度)

排出係数 (t-CO2/千kWh)	係数の根拠	エネルギー起源CO2 排出量(t-CO2)
		3,673

# 環境方針

アサヒゴム株式会社は自動車、弱電、建材分野のパーツサプライヤーとしての開発、技術、製造、販売及びサービス等に係わる活動において、企業としての「自覚と責任」をもとに、環境保全が企業の最重要課題であることを認識し、人類共通の財産である地球環境を守り循環型経済社会の構築に寄与するため、組織の活動、製品及びサービスの面で、環境負荷低減型製品の開発に努め、更に性質、規模及び環境影響に対して自主的且つ永続的な環境保全に取り組む。

## 環境目標の達成と向上

企業活動における環境影響を的確に捉え、環境目的・目標を定めて実行し、定期的な見直しにより継続的改善を図る。

## 環境法規則の順守

環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び組織が同意するその他の要求事項を順守し、自主的基準を設定して一層の環境保全に取り組む。

## 省資源化地球温暖化防止

企業活動の各段階において、省エネルギー、廃棄物削減などによる環境保全活動及び汚染の予防に努める。地球温暖化防止のため、CO<sub>2</sub>の排出削減に努める。

## 環境意識の向上

環境マネジメントシステム運用により、環境保全活動を推進すると共に、環境教育を組織で働く又は組織の為に働く全ての人に周知し、環境保全に対する意識の高揚を図る。

## 社会との共生

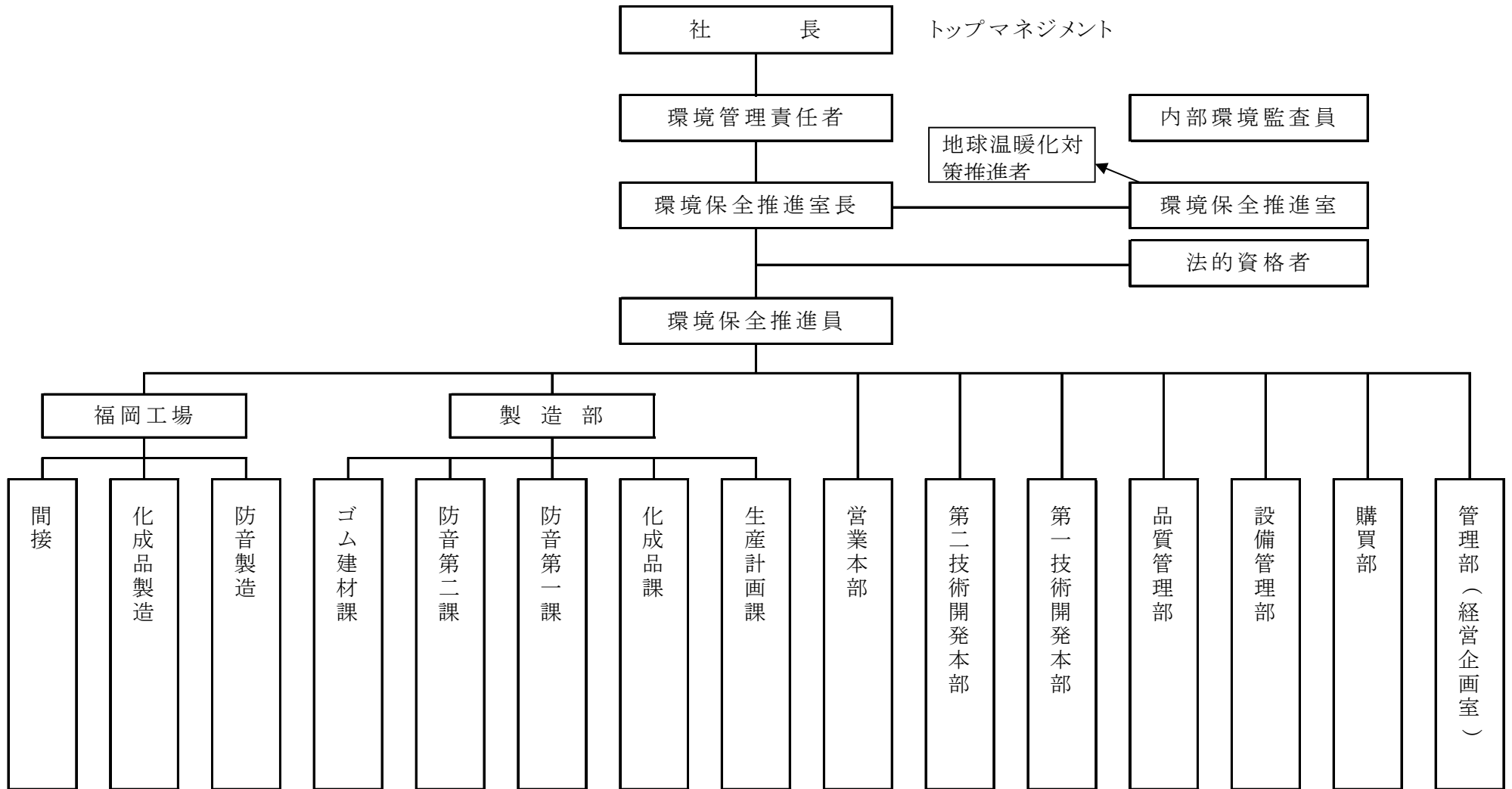
本方針及び環境保全活動の情報は、社内外の区別なく公開し、社会との信頼関係の構築に努める。

2010年4月1日

代表取締役社長 川元 牧也

付図2

環境マネジメントシステム体制図



環境推進委員会メンバー